

とちぎの喫煙状況



健康長寿とちぎ

平成30(2018)年3月

たばこの煙には多くの有害物質が含まれるため、喫煙は、がんや脳卒中、心臓病など様々な病気にかかる危険性を高めます。県が行った各種調査等をもとに、県内の喫煙の状況についてご紹介します。

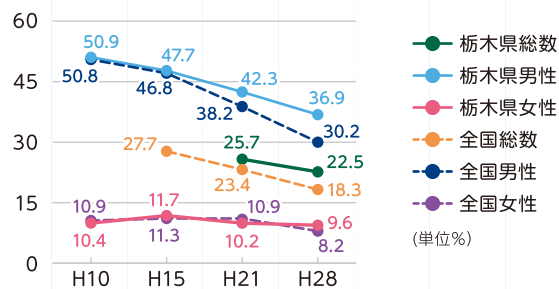
1

県内の喫煙率はどのくらいでしょう？

県内の喫煙率は徐々に減少しており、平成28年度の調査では、男性36.9%、女性9.6%でしたが、いずれも全国より高い状況です。年代別に見ると、男性では30歳代、40歳代が、女性では50歳代が、最も高くなっています。

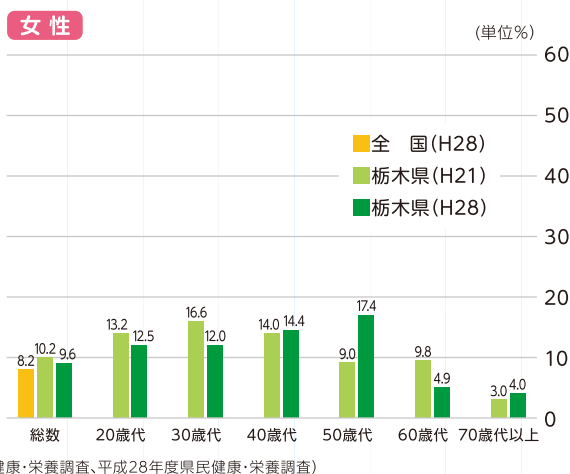
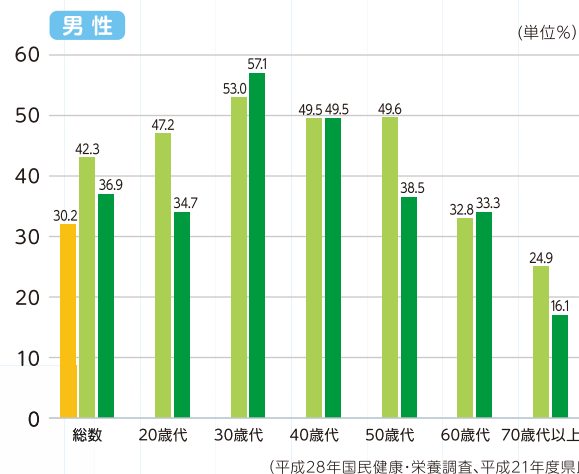


図1 現在喫煙している人の割合の推移(20歳以上)



(県民健康・栄養調査、国民健康・栄養調査)

図2 現在喫煙している人の割合(男女別、年代別)

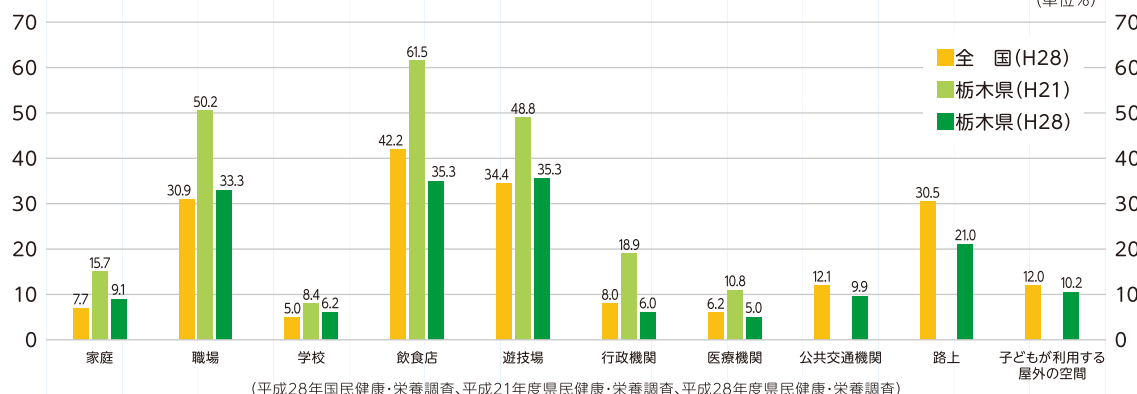


2

生活の中で他の人のたばこの煙を吸うことがありますか？

受動喫煙の機会はいずれの場所でも減少していますが、飲食店、遊技場、職場では、3割を超える人が日常的に受動喫煙をしている状況です。家庭においては、1割近くの人が、毎日受動喫煙をしています。

図3 他人のたばこの煙を吸う機会(受動喫煙)を有する人の割合(20歳以上、現在喫煙者を除く)



※「受動喫煙の機会を有する人」とは、家庭は「ほぼ毎日」、その他の場所は「月に1回以上」受動喫煙の機会を有する人。
※平成21年度は、「公共交通機関」、「路上」、「子どもが利用する屋外の空間」について調査を行っていない。

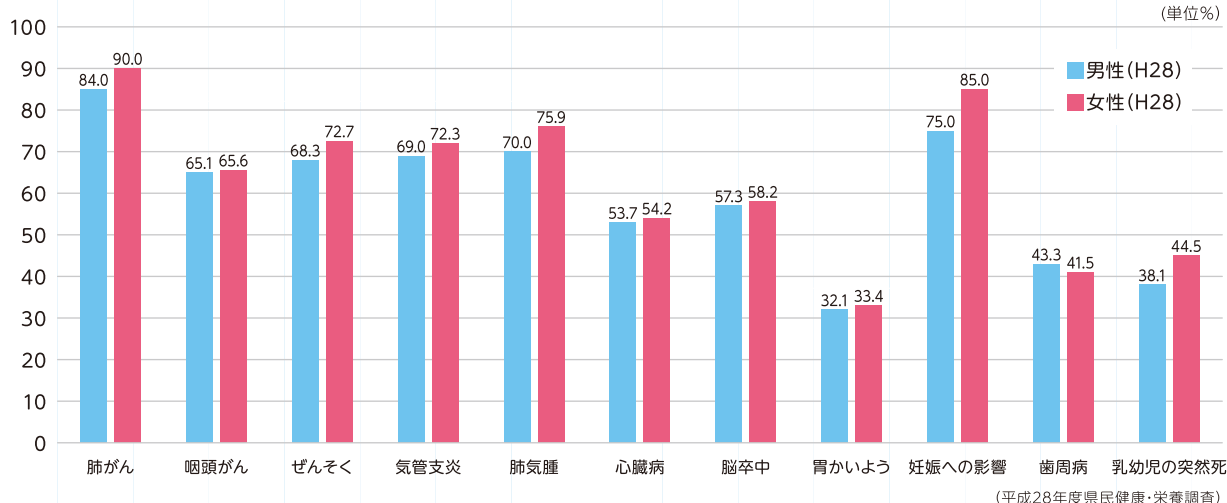
3

喫煙が健康に与える影響を知っていますか？

喫煙が、肺がんをはじめ、ぜんそく、肺気腫など呼吸器の病気にかかる危険性を高めることは、おおむね7割以上の人を知っていますが、脳卒中、心臓病のリスクとなることの認知度は、5～6割に留まっています。また、たばこの煙が乳幼児の突然死と関連することは、4割前後の人しか知らない状況です。



図4 たばこが健康に与える影響の認知度(たばこを吸うとかかりやすくなると答えた人の割合)(男女別)



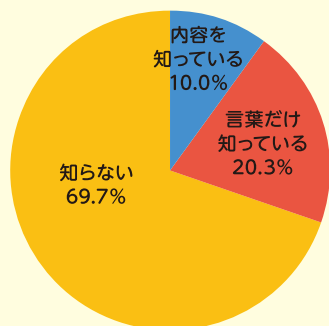
喫煙・受動喫煙の健康影響 ～肺がんだけではなく～

たばこの煙には、約250種類の有害物質が含まれています。有害物質は、のど、肺などたばこの煙に直接触れる部分だけではなく血液を通じて全身に運ばれ、ほとんどの部位のがんや、脳卒中、虚血性心疾患、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、糖尿病、歯周病など様々な病気の原因となります。

また、たばこから立ち上る煙や喫煙者が吐き出す煙にも多くの有害物質が含まれるため、本人は喫煙しなくても他の人のたばこの煙を吸いこむ(受動喫煙)と、肺がん、脳卒中、虚血性心疾患などの原因となります。

「COPD(慢性閉塞性肺疾患)」を知っていますか？

図5 COPDの認知度(20歳以上)



(平成28年度県民健康・栄養調査)

COPDは、主に喫煙が原因で肺が炎症を起こし、呼吸がうまくできなくなる進行性の疾患です。せき、痰などのありふれた症状から始まりますが、重症化すると少し動くだけでも息切れするなど、生活に大きく影響します。

COPDによる死亡は、日本人の死亡順位11位、男性では8位となっています(厚生労働省 平成28年(2016)人口動態統計)。

COPDは恐ろしい病気でありながら、認知度が低いことなどから、全国530万人と推計される患者のうち、95%以上が未診断、未治療の状態とされています。

治療を受けている患者数

約26万人

(厚生労働省2014年患者調査)



(NICD study, Nippon COPD epidemiology study)

加熱式たばこなら、安全？

たばこの葉を加熱して吸引する「加熱式たばこ」も、たばこの1種です。加熱式たばこにも、依存の原因となるニコチンや発がん性物質などの有害物質が含まれています。販売後の年月が短いため、長期の使用や受動喫煙による将来の健康被害については、現時点では予測困難とされています。